

川辺川流水ダムで環境は守れるか？

—川辺川の水質は悪化し、鮎はいなくなる—

公述人 八代在住 南 由穂美

1 そもそも巨大構造物(長さ264m、高さ107.5m)ができる問題点

ダムは他の治水案と比較して、環境に与える影響が最大のもので、そのダムが「環境に与える影響を最小限にとどめる」とは、どういう意味でしょうか。

具体的には以下の問題が発生すると考えられます。

- ① 河川が上下流に分断され、動植物・魚類(鮎)の生活環境が一変する
- ② 洪水時の濁りにより八代海の濁化が進み、魚類やアサリが死滅・減少する
- ③ 清流が失われ、尺鮎はいなくなる
- ④ 洪水とは試験湛水で湛水域やつづらせ洞窟の動植物が死滅・減少する
- ⑤ 自然な谷あいの風景が損なわれる
- ⑥ 洪水後の流木や流出土砂・濁りで、景観が損なわれる

2 国土交通省及び熊本県の環境影響評価の問題点

国や県は従来、川辺川の環境を守るのではなく、流水型ダムを推進する立場で環境影響評価には極めて消極的な対応を取ってきました。そのことは、流水型ダムはそれまでの多目的ダムとは別の事業なので、「環境アセスメント」を実施するのが当然なのに、「それに準ずる影響評価」しか行ってこなかったことに表れています。

では具体的に、どのような問題があるのでしょうか。

- ① 「環境への影響を最小限にとどめる」を繰り返すが具体的な対策は何一つない
- ② 評価の対象区域を球磨村渡までとし、八代海への影響には、一切触れない
- ③ 流水型ダムの水質への影響に関し、既設流水型ダムの経験に触れようとしない(完成していない足羽川ダムではなく、益田川ダムや最上小国川ダムの例)
- ④ 立野ダムで起こっていることを紹介しようとしない
- ⑤ 公聴会のあり方について、極めて消極的

3 球磨川流域で何が起こったのか

瀬戸石ダムと市房ダムからの泥分(シルト)が海域の濁化を引き起こし、そのことが魚類やアサリの減少を招いた。

- ① 八代海で魚類が減少した原因
球磨川からの泥により藻場の海藻が減少し、魚類の餌が減少した

藻場は魚類の産卵場所でもあり、藻場が減ったことで繁殖が困難となった

② アサリが減少した原因

海域が潟化したことでアサリが呼吸できなくなったこと

チヌやエイがアサリを食べた」との記事もあるがチヌやエイは、以前からも居り

大増殖している訳でもないので、環境の変化(海域の潟化)が原因である

川辺川流水ダムによる濁りの流出が八代海の環境を悪化させることが懸念される。

4 既設の流水型ダムで何が起こったのか

国は、流水型ダムが水質を悪化させない例として、福井県の九頭竜川水系の足羽川ダムをあげています。しかし、このダムはまだ完成しておらず、環境への影響が示されてはいません。なぜ、既に完成した益田川ダム(2007年竣工)や最上小国川ダム(2019年竣工)立野ダム(2022年竣工)で起きた環境への影響に向き合おうとしないのでしょうか。極めて意図的と言わざるをえません。

これらのダムで起きた共通の問題として、どんなことがあるのでしょうか。

- ① アユなどが減少した
- ② 洪水後の濁りの発生が見られる
- ③ 流木などによる環境及び景観への影響

5 川辺川の環境を守るための提案

それでは、川辺川の環境と清流と鮎を守り、八代海の魚類とアサリを保全するために、私たちは何をすればいいのでしょうか。

- ① 川辺川流水型ダムの計画を撤回する
- ② 森林保全のための林業形態(自伐型林業)と保水力増加を評価する
- ③ 八代海の環境とダム(瀬戸石ダム及び市房ダム)の影響について調査する
- ④ 河川を掘削するなど、他の治水対策を検討対象から外さない
- ⑤ 広く住民に説明会及び討論会を開く